

早期
覚知

住宅用火災警報器は早期発見のカギ！

住宅用火災警報器は、熱や煙を感知して、火災の発生を警報音や音声で知らせるものです。火災が発生したことを早期に感知して住宅内の人に知らせることで、初期消火や避難などを素早く行えるようにします。



点検は定期的に

本体のボタンを押すか、付属の紐を引きます。正常な場合、正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。少なくとも年に2回は点検しましょう。（春・秋火災予防運動の時期に実施することを推奨）反応しない場合は、すぐに交換しましょう。

交換の目安は10年

設置から10年以上の場合も交換しましょう。設置年数は、設置の時に記入した設置年月日や交換期限で確認できます。記載がない場合でも、製造年でおおよその時期がわかります。



新しく設置する際は、生活に適した機器を！

火災などの危機に対して、より安心できるさまざまな機能を兼ね備えた機器の設置を検討しましょう。

出典：総務省消防庁「住宅防火関係 住宅用火災警報器を設置しましょう！」

延焼
拡大
防止

防災品を使用しよう

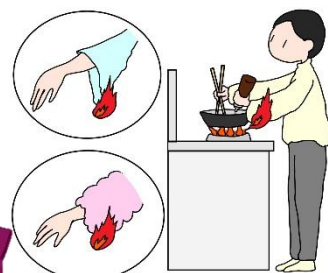
防災性能を有する防災品は、小さな火源（火だね：マッチ・ライター）の炎を接しても、炎が当たった部分が焦げるだけで容易に着火せず、着火しても自己消火性（自ら延焼拡大を停止する性能）により、容易に燃え広がることはありません。

火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具や衣類およびカーテンは防災品を使用しましょう。



↑防災物品ラベル

出典：総務省消防庁「防災品の効果」



防災エプロンや防災アームカバーは調理中の着衣着火被害を最小限にとどめます。

出典：消費者庁

初期
消火

初期消火に役立つ住宅用消火器等を備えよう

住宅用消火器は、一般家庭で使いやすいように開発され、軽量で、高齢者や女性などでも使いやすく、火元を狙いやすくなっています。

家庭で起こり得る火災には、紙や木材、布などが燃える「普通火災」、電気コードなどで起こる「電気火災」、天ぷら油で起こる「天ぷら油火災」、石油ストーブなどで起きる「ストーブ火災」があります。火災を小さいうちに消すために、消火器などを設置し、使い方を確認しておきましょう。

消火器の種類とマーク



普通火災用

油火災用

電気火災用



日頃の
訓練

地域や自治会で行われる防災訓練等に参加しよう

訓練では、初期消火を迅速に行う方法を学ぶことができます。初期消火とは、火災が発生した直後の段階で、火が小さいうちに鎮火を目指して行う消火活動のことです。消防隊が到着する前に現場にいる人が自ら行動することで、被害を最小限に抑えられる可能性が高まります。また、実際に消火器を使用する訓練を積んでおくと、いざというとき迅速な行動をとることができます。



防災ふちゅう

第7号 2026年10月

府中地区まちづくり協議会
〒503-2105
岐阜県不破郡垂井町新井 709-4
tel/fax: 0584-23-2002
e-mail: fucyukou@town.tarui.lg.jp

第7号のテーマは…



建物火災 22,345 件のうち
半数以上 11,929 件が住宅火災!!

令和7年に全国で発生した火災は 40,783 件。そのうち建物火災は 22,345 件で、半数以上を占めているのが住宅火災で 11,929 件でした。

内 訳

一般住宅 7,533 件
共同住宅 4,076 件
併用住宅 320 件

死 者 1,414 人
負傷者 5,949 人

出典：令和7年版 消防白書

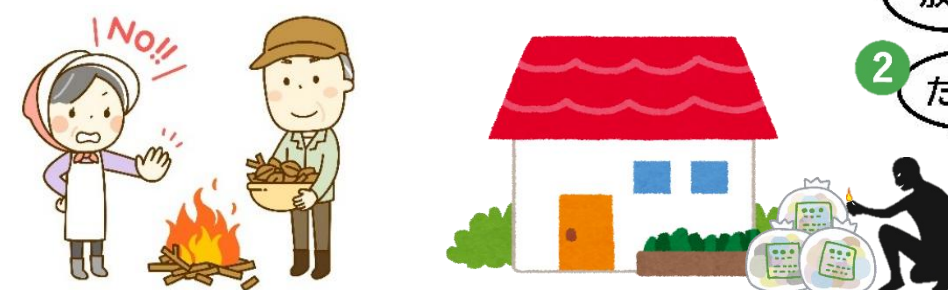
火災の主な原因とランキング



今年6月、ニュースで大きく報道された東京都北区の小学校で発生した火災は、洗濯物を電気ストーブやサーキュレーターで乾かしていたことが原因でした。

また、7月に垂井町で発生した民家火災では、2名の命が失われました。

7号では、日常生活の中で起こりうる「住宅火災」を取り上げます。一瞬で生命や財産を奪う火災、適切な予防策を講じて未然に防ぎましょう。



命を守る

4つの習慣



・寝たばこは絶対にしない、させない



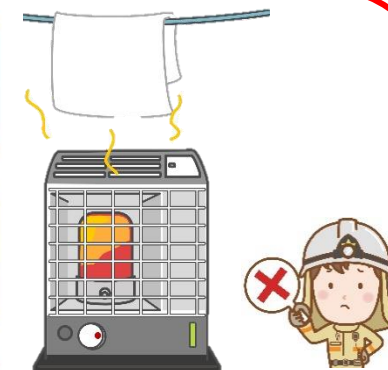
・ストーブの周りに燃えやすいものを置かない



・コンロを使うときは火のそばを離れない



・コンセントはほこりを掃除し、 unnecessary プラグは抜く



リチウムイオン電池による火災

スマートフォンやモバイルバッテリーに内蔵されている
リチウムイオン電池からの出火による火災が急増!!

2025 年、過去最高の 36,760 件!!(環境省調査)

リチウムイオン電池は、繰り返し充電、放電できる電池のことで、主に小型で大量の電力を必要とするスマートフォンやモバイルバッテリーなどに活用され、今や生活に欠かせないものとなっています。しかし、正しく使用、正しく処分しないと火災の原因ともなります。近年、リチウムイオン電池を使用した製品の増加と比例するように、火災事故等の件数も急増し、大きな問題となっています。

出火する原因

リチウムイオン電池は、電解液として可燃性の有機溶剤を使用しているため、衝撃等により内部の正極板と負極板が短絡（ショート）し、急激に加熱後、揮発した有機溶剤に着火して出火することがあります。



充電中に多く発生！～外部衝撃にも要注意～

リチウムイオン電池関連火災のうち、約 6 割が充電中に発生しています。製品の欠陥を除き、最も多いのは「充電方法誤り（正規品以外で充電）」です。非充電中では、「分解・廃棄・バッテリー交換」により多く発生しています。また、外部衝撃（落下）」によるものは、充電の有無にかかわらず発生しています。また、近年では、モバイルバッテリーの普及増加により、格安で販売される低品質のモバイルバッテリーや、リコール製品による出火事故も増加しています。

出典：東京消防庁

身近にある
リチウムイオン電池搭載製品の一例

- ・モバイルバッテリー
- ・電気カミソリ
- ・携帯電話
- ・コードレス掃除機
- ・ポータブル電源
- ・電動アシスト付き自転車
- ・タブレット
- ・ワイヤレスイヤホン
- ・電動工具
- ・ノートパソコン
- ・ファン付き作業着等バッテリー

ストップ！リチウムイオン電池火災

■ 就寝時や目の届かない場所では使用しない

リチウムイオン電池から出火する際、予兆として異音、異臭、異常な発熱、膨張や変形、発煙などが発生する場合があります。就寝中での使用や目の届かない場所での使用の場合、その予兆を見逃してしまう可能性が高いため、就寝時や目の届かない場所では使用しないようにしましょう。

■ 暖房器具や火元のそばに置かない

冬場など、暖房器具やたき火などの火元のそばにリチウムイオン電池を置いてしまうと、リチウムイオン電池の温度が急激に上昇し、出火などのリスクが高くなります。暖房器具や火元のそばにリチウムイオン電池を置かないようにしましょう。

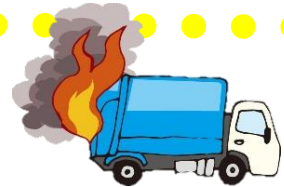
- 衝撃を与えないよう適切に取り扱い、むやみに分解しない
- 製造業者が指定する充電器やバッテリーを使用する
- 膨張、発熱などの異常がある場合は使用をやめ、製造業者や販売店に相談する
- 鞆、車内など熱がこもりやすい場所での使用は控える



消費者庁は、充電式携帯扇風機使用中、落下させたがそのまま使用していたところ、発煙・破裂音がした事例を報告しています。

廃棄するときも注意！

リチウムイオン電池やバッテリーなどの小型充電式電池は、『落とす』『押しつぶす』『折り曲げる』などの衝撃が加わることで、電池がショートし発火します。不燃ごみは、パッカー車で圧縮しながら収集するので、小型充電式電池やこれらを含む製品を不燃ごみとして出さないでください。火災の原因となります。



垂井町内でごみ収集時に発生した
小型充電式電池が原因と思われる火災



Ni-Cd

ニカド電池



Ni-MH

ニッケル水素電池



Li-ion

リチウムイオン電池

小型充電式電池等を使用した製品で、小型充電式電池等が取り外せるものは取り外してください。（無理に取り外すことは危険です）小型充電式電池等が取り外せないものや、取り外し方がわからないものは、垂井町エコドームへ持ち込んでください。職員が確認、処理方法をご案内します。

文・写真提供：住民課 環境衛生係

身近な出火原因と予防策

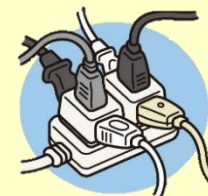
電気製品は、直接「火」を扱いませんが、使い方によっては発火して火災原因になることがあります。発火原因と予防策を覚えておきましょう。

【電気コード】

電線の短絡・トラッキング・半断線等によって起こる火災を「電気コード火災」といい、火を使用している意識がないため、火災に気づきにくい特徴があります。

電流過多による火災

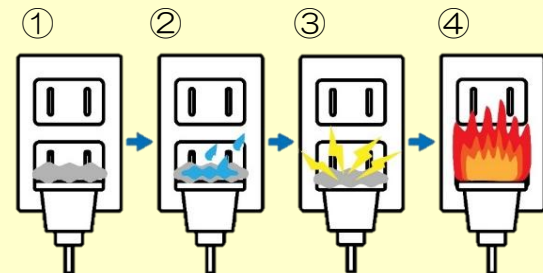
一つのコンセントから電源タップや延長コードをつないで、決められた容量以上で使用すると発熱し火災の原因になります。



ストップ！電気コード火災

- コンセント周りは定期的に点検・清掃する
- 使用しないプラグは抜いておく
- 家具や大型家電製品の裏など、見えにくい場所のコンセントは特に注意する
- 古いタップは新しいものと交換する
- タップの数珠つなぎはしない
- タコ足配線は決められた容量を超えない
- 熱を出す電気機器は壁のコンセントに差す
- 電気コードを束ねて使用しない
- 電気コードを家具の下敷きにしない
- 被覆がはがれている電気コードは使用しない

トラッキング現象のメカニズム



- ① コンセントとプラグの隙間に埃がたまる
- ② 埃が湿気を吸う
- ③ 火花が出る
- ④ 火災発生

【衣類乾燥機】

食用油、機械油、美容オイル、ベンジンなどは洗濯しても完全には落ちないことがあります。それらが付着した衣類やタオルを乾燥させると、熱風で油分が発熱し、自然発火するおそれがあります。

ストップ！

衣類乾燥機火災

- 油分が付着した洗濯物は干して乾燥させる



知っていますか？「収れん火災」

収れんとは、虫眼鏡などに当たった太陽の光が屈折して一点に集まることをいいます。光が集まった部分は高温になるので、そこに可燃物があると発火して「収れん火災」になります。



ストップ！収れん火災

- 水入りのペットボトル、金魚鉢、花瓶、メイク用の拡大鏡などを窓際に置かない
- カーテンを閉めて太陽の光を遮る

【電子レンジ】

電子レンジは子どもから高齢者まで幅広い世代が手軽に利用できる便利な電気製品ですが、不注意や維持管理が至らず火災となっているケースが大部分を占めています。



電子レンジを使用する時には、次のことに注意するとともに、取扱説明書で使用方法を確認して、調理器具として適切に使用しましょう。

ストップ！電子レンジ火災

- 長時間過熱しすぎると急速に燃える危険性のある食品（サツマイモや肉まんなど）は、加熱時間を長めに設定しない
- その場を離れず、食品の様子を見ながら加熱する
- 冷凍食品などは、必ず「袋ごとレンジ不可」など包装の表示を確認する
- 普段から電子レンジの周囲には、可燃物を置かない

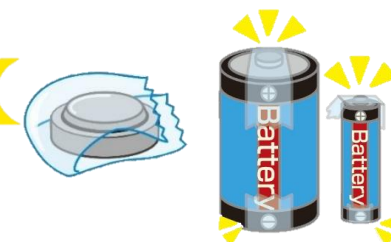
【乾電池】

発生事例：2018 年 11 月、大阪のホームセンターで火災が発生しました。廃棄した電池同士が接触し短絡によって出火した可能性が高いと大阪府警が明らかにしました。電極同士が重なり合うと過充電によって発熱し発火する恐れがあるとして注意を促しました。

また消費者庁も、電池同士の接触が原因の火災は一般家庭でも起き得るといい、「保管や廃棄の際はビニールテープを巻くなど、直接接触させないように徹底してほしい」と呼びかけました。



使用済み乾電池で 火災?!



ストップ！乾電池火災

- 使用直前まで包装を取らず、樹脂ケースや専用ケースに入れて保管する
- アルカリ電池、マンガン電池、リチウム電池など、種類や銘柄を区別して保管する
- 使用済み電池のプラス極とマイナス極にビニールテープを貼り、金属部分が接触しないよう絶縁処理する